

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～

梅下村塾

48



塾長 梅内 拓生

(大津波後の街)

東海文芸 祥風苑5月
短歌教室 6月13日

走れどもライトの先に
灯り無く暗闇続く津
波後の街

(佐藤富二雄)

寒月に照らされ浮か
ぶ白き物ガレキとなり
し蔵の白壁

(佐藤富二雄)

3・11の東日本大震
災。世界はいろいろな
関心を持って注目し
た。巨大なコンクリー
ト防波堤を根こそぎに
破壊し、街を呑み壊滅
させた想像を絶する自
然の巨大な力、この大
災害に暴徒化せずに忍
耐をもって対応した草
の根の人々とそれを支
えた地域文化、中央政
府の対応の「スローなこ
と」、行政システム機能
の不全なこと、これら
は日本一国にとどまら
ず、二十一世紀の文明
社会と地球全体を包む
重大な関心事でありま
す。幸いにも、五葉山、
水上山、今出山の麓の
街や集落は災害から逃

れました。ここから、
気仙地方はどのように
たち上がるべきか。5
月12日の気仙沼市、13
日の大船渡市で開催さ
れた「森と水と命の惑
星」国際会議宣言には
気仙地方から世界に向
かっている思いが込めら
れております。

(土の湿り)

東海文芸 あじさる
俳句会(5月) 5月
13日

代挿いで映るものみ
なセピア色

(村上迪弘)

燕来る程好き湿りの
土

(村上 迪弘)

避難地に句友のあり
て新茶汲む

(菅原和子)

お骨なき妹の弔ひ五
月雨

(菅原和子)

新鋭機音軽やかに田
植えかな

(小島二三)

ふるさとこの歌手コン
サート夏来る

(小島二三)

水田稲作作業も機械
化が進み田植えは機械
で行うことが出来ま
す。腰を曲げての労働
を省けますので、その
分だけ気分に余裕が出
来、夜には夏のコンサ
ートも楽しめます。代
挿は手で行っている
のでしよう、土の湿り
気の具合を敏感に感じ
取っております。田仕
事が休みの日に、句友
と新茶を汲む。朋あ
り遠方より来るあり、
亦嬉しからずや(論
語)、まさに、宮沢賢
治が求めた農民芸術概
論の世界が展開されて
おります。

「鬼」と「鎮魂」

6月12日の第7面に
「国立劇場で鎮魂の舞
い 23日本番、けいこ
に熱 日頃市の板用肩
怒剣舞「気仙代表の気
持ちで」の記事が掲載
されております。日
本の「鎮魂」の文化は
縄文までルーツをたど
れます。いかなれば、
「鎮魂」は日本文化の
奥に脈々と流れている
ものです。

江戸時代に気仙地方
が生み出した鬼剣舞、
鹿踊りらの郷土芸能
は、この流れをくむも
のです。一万年以上も
続いた縄文文化、それ
を征服した、弥生文化

と大和朝廷文化、「鎮
魂」はこれら文化のつ
ながりのなかから生ま
れて来ました。気仙の
地名には蝦夷、アイヌ
からきているものが沢
山知られております。
それらが漢字とつなが
っているいろに使われ
ております。サカリ、
イカワ、タッコン、ヒ
コロイチ、オキライな
どです。

第2面のコラム気仙
坂の「越喜来チルドレ
ン」は大船渡市三陸町
越喜来の三陸キャンパ
スで青春の3年間を過
ごした北里大学水産学
部の卒業生たちが、震
災で甚大な被害を受け
た第二の故郷の復興を
願ひ、さまざまな思い
をつづり、行動をして
いる事を記載しており
ます。

「越喜来」は昔は「越
鬼来」という漢字をあ
てていたと思ひます。
「鬼」と「鎮魂」は歴史
の奥で深くつながって
おります。古来、日本
文化には「荒魂」と「鎮
魂」の両方の流れが在
ります。
東日本大震災の経験
から、気仙地域に「荒
魂」と「鎮魂」の調和
による世界に通じる文
明思想と社会システム
の構築のイニシアチブ
が生み出されることを
願っております。
(便所のないマンシ
ョン)

6月14日の第6面に
「復興支援ツアー盛況
被災地の現状伝える
宮古から宮城まで南下
気仙の歴史、文化も」
が掲載されている。し
かし、このツアーも福
島県までは脚を伸ばし
ていない。

3・11の東日本大震
災は陸前国、陸中国、
陸奥国の三陸の国を巻
き込んだ大震災であっ
た。最も悲惨な被害を
こうむったのは地震津
波の自然災害に加え原
発事故による災害をこ
うむった福島県の太平
洋海岸地方です。これ
ら原発被害地域は立ち
入り禁止の状態なので
す。目に見えない放射
能汚染の恐ろしさが現
実の生活に及んでおり
ます。

現在の科学技術では
安全な原子力エネルギー
利用と処理システム
の構築はできないとき
れております。即この
ために、原子力発電所
は(便所のないマンシ
ョン)と言われている
わけです。

第5面の「無我にて
候 澤木興道とヤマキ
さん(55) 大船渡市
盛町 狩集 憲彦」に
は便所掃除と禅の教え
のつながりが記述され
ております。便所と便
所掃除はまさに、禅の
説く「心身一如」の実
践と認識のはじまりで
あると思ひます。